

見通しをもって、夏休みにしかできないことをしよう

2025.7.18 校長 西谷 秀幸

今日は、1 学期の最後の日、終業式です。いよいよ明日から待ちに待った夏休みですね。この 1 学期、皆さん、本当によく頑張りました。

皆さんにとって、1 学期はどんな学期だったでしょうか。1 学期を振り返り、自分の気持ちは次の 3 つの中のどれに近いか、1 つだけ手を挙げてみましょう。(挙手)

- ① 1 学期は、よくできた。2 学期も、さらにがんばろう。
- ② 1 学期は、まあまあだった。2 学期も、それなりにがんばろう。
- ③ 1 学期は、よくなかった。2 学期は、しっかりがんばろう。

では、この 3 つのうち、振り返りとして「一番良くない」のは、どれだと思いますか。教室でぜひ話し合ってみてください。

さて、いよいよ明日から待ちに待った夏休みです。「夏休み」と聞くだけで、なんだかワクワクしますね。ワクワクするのは、子供だけではありません。校長先生も先生方たちも、みんな夏休みと聞くとワクワクするのです。

今年の夏休みは、44 日間もあります。夏休みは普通 42 日間なので、今年はいつもの年より 2 日間多いのです。44 日間というのは、学校に登校する 2 か月分になります。

東京では夏休みが長くて冬休みが短いですね。でも、北海道では夏休みが短くて、来週も学校に通い、再来週の 7 月 26 日～8 月 24 日までが夏休み。2 学期は 8 月 25 日から始まるので、30 日間しか夏休みがないのだそうです。

さらに、なんと…岩手県はもっと短くて、26 日間しか夏休みがないのだそうです。その分、冬休みが長くて東京よりも 3 学期が始まるのが遅いのですが。つまり、夏がどのくらい暑くて冬がどのくらい寒いかなど、場所によって夏休みが長さが違うのですね。

さて、皆さんは、この 1 学期、学校のある日は、毎日、決まった時間に起きて、学校では決まった時間に勉強をして、だいたい決まった時間に帰っていたので、言われなくても規則正しい生活ができていましたね。

だから、明日からはお昼頃まで寝ていても大丈夫だし、夜遅くまで起きていても大丈夫。やりたい放題にダラダラした生活ができるぞ…なんて思っている人、いませんよね。

夏休みは、「自由な時間」がたくさんあるからこそ、皆さんがどう過ごすかによって、良い方に大きく変わるチャンスであり、悪い方に大きくダメになる可能性もあるのです。

勉強や宿題、運動や習い事…、夏休みに頑張ったことは、2 学期に必ず結果が出て、今までよりも「ぐ～ん」とできるようになります。

反対に、夏休みの「自由な時間」をダラダラ過ごし、夜遅くまで起きていたり、ゲームばかり、YouTube ばかり見たり、スマホばかりいじったりしていると、ダメな人間になってしまいます。

そんな人は、大人になった時にコンピューターやロボットに仕事を取られて、ロボットに「ああしろ、こうしろ」と命令されるようになってしまいますよ。そんなのは嫌ですね。

ですから、「いつまでに何をやって、終わったら次にこれをする」などと、おうちの人に言われる前に、夏休み 1 日 1 日を、どう過ごすか「見通しをもって計画しながら」過ごしましょう。そうすると、当然、2 学期も 3 学期も楽しく過ごせるし、また大人になっても、ロボットに負けないで、自分のやりたいことがたくさんできる人になれますよ。

また、例えば、「1 万ページをめざして本をたくさん読む」とか、「家族のために今日の料理を考えて、買い物も自分でして料理を作る」など長い夏休みだからこそ、普段できない、夏休みにしかできないことをしましょう。

中には、自由研究になるものもありますね。長い「夏休みにしかできないこと」を見つけて、チャレンジしてみましょう。そして、2 学期になったら、どんなことをしたのかぜひ教えてください。

ちなみに校長先生は、この夏休みに「LEGO のロボットを作り変えたり、英語の勉強をしたりしよう」と思っています。皆さんも、自分で考えて、計画的に好きなことに取り組んでみましょう。

では、44 日間の夏休み、元気で過ごしてくださいね。9 月 1 日、2 学期始業式の日「おはようございます」という元気な挨拶で会えるのを楽しみにしています。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

1学期もいよいよ終業式です。いろいろありましたが、皆さんのおかげで1学期を無事に終わることができました。ありがとうございました。1学期を振り返ってみて、皆さんにとってどんな4か月だったでしょうか。

各学級でも1学期を振り返ることと思います。その際、どう振り返るかも大切です。子供たちと同じように、皆さんだったらどれを選びますか。そして、下の①～③のうち、振り返りとして一番良くないのは、どれだと思いますか。

- ① 1学期は、よくできた。2学期も、さらにがんばろう。
- ② 1学期は、まあまあだった。2学期も、それなりにがんばろう。
- ③ 1学期は、よくなかった。2学期は、しっかりがんばろう。

これは、去年もお伝えしたのですが、私は、②の「まあまあだった」が、一番良くない振り返りだと考えています。

一般的に子供たちは、②の「まあまあだった」より、③の「よくなかった」方が良くないと答えます。しかし、③の振り返りは、よくなかったことをしっかりと自覚していて、次への意欲と決意があります。それに対して、②は「まあまあ」という現状維持に過ぎないため、向上しようとする気持ちが薄いと捉えられるのです。

内容にもよりますが、こういうときには、良かったのか悪かったのかをはっきりさせることが大切です。私は、担任時代に「『まあまあ』というのは振り返りになっていない。しっかり考え直しなさい。」と繰り返し子供たちに言ってきました。学級の実態に合わせて、ぜひ子供たちと話し合ってみてください。

さて、今年も「自由な時間」だからこそ「見通しをもって計画的に過ごす」とことと「夏休みにしかできないことを取り組む」をキーワードに夏休みの過ごし方を話しました。当然ながら、学校教育は決められたカリキュラムをもとに、やらなくてはならない教育活動を行うため、「自由な時間」があまりありません。だからこそ、夏休みをどう過ごすか…ということは、子供たちが与えられたカリキュラム以外に、主体的な学習や生活、先を見通した計画的な活動を身に付けるには最適です。とはいっても、日本の子供たちは、それがとても苦手です。だからこそ、意識して過ごせることが、将来、ロボットやAIに仕事を奪われないことにつながると考えています。学級の実態に合わせて補足してください。

話は変わりますが、通知表を渡す学年、通知表以外のものを一人一人に渡すクラスは、1学期にがんばったことや成長や変容したことなどを一言でもいいので、一人一人に声をかけてほめてあげてください。そのときに、「1学期は〇〇がよくできたね。」などと、ほめて終わるようにしてください。「よくできたね。」とほめた後に、「じゃあ、次はこれをがんばろうね。」と付け加えてしまうと、「ほめられた」が「励まされた」に変わってしまい、子供たちのうれしさが半減してしまいなので…。

【おまけ】

夏休みは、授業こそありませんが、この時期にしかできないことがたくさんあります。専門とする教科領域の研究、東京都教職員研修センターでの研修、板橋区教育支援センターでの研修、教育会研究部会や外部の研究会への参加、2学期の準備…。あれもこれもと考えがちですが、まず心と体の疲れを癒やし、リフレッシュを第一にお過ごしください。その上で、2学期以降に向けて、絞って取り組みましょう。

昔の話ですが、私の知り合いに、夏休みを水泳指導と様々な研修、2学期の準備で休むことなく過ごした人がいます。そのときは、あれもこれもやるぞと意気揚々と充実した夏休みを過ごしたのですが、2学期が半分くらい過ぎたときに、反動がきてバテてしまい、学校を何日も続けて休んでしまったそうです。これでは本末転倒です。

教師の仕事は「放電」が多いと言われています。無事に終わった1学期ですが、大きな学校行事から児童や保護者の対応など、様々なことがあったことで、我々教職員も知らず知らずのうちに過度のストレスを感じ、目に見えない疲れを抱え込んでいると思います。夏季休業中にたくさん休養してリフレッシュをして、しっかり「充電」してください。

1学期の御指導・御対応、ありがとうございました。水泳指導、夏季学習教室、鼓笛隊の指導など、夏休みもよろしくお願いいたします。